

会議名	H25 年度 6 月南ブロック会	<input type="checkbox"/> 全体会 <input checked="" type="checkbox"/> ブロック会 <input type="checkbox"/> 執行部会
開催日	平成 25 年 6 月 19 日(水) 14:00 ~ 17:00	
場所	横浜市西区福祉保健活動拠点「フクシア」	
参加者	阿久和鳳荘、オアシス、かまくらしるばーほーむ、グリーンハウス逗子、グリーンワフ東戸塚、ケアポート・田谷、けいあいの郷西谷、コスモス、こもれび、境木の丘、スカイ、セアラ逗子、ソフィア横浜、なのはな苑、ぬかだ、能見台パトリア、ハートケア湘南・芦名、ハートケア横浜、ひとりざわ、ふるさと、ほのぼの、横浜莫愁苑、リハパーク舞岡、リハビリポート横浜、レストア横浜、ガーデニア・ごしょみ、Cアミーユ 以上 27 施設 34 名 記録者:萩原	
内容	<p>司会:岩佐氏</p> <p>1. 開会挨拶 渡邊 副部長(スカイ)</p> <p>2. 講演:「インテークの重要性と支援相談員に期待する役割」～なのはな苑での事例もふまえて～ 演者:なのはな苑 松浦 美知代 氏 (内容)</p> <p>●施設紹介 H7 年に三浦市で、県内 16 番目に開設。100 床の認知症病棟専門の施設</p> <p>●掲載された記事の紹介 H25 年 4 月に 4 日間連続で毎日新聞に掲載され、5/14 の「記者の目」にも施設の紹介があった</p> <p>●なのはな苑におけるH24 年度の「稼働率」、「在宅復帰率」、「ベッド回転率」、「要介護度 4 及び 5 の入所者の割合」について数値報告</p> <p>●相談員の役割のキーワードは、多方面に多角的に「つなぐ」こと [相談員に不可欠な「知識」「情報」] ・介護保険制度(ケアマネの取得を！) ・自施設の強み・弱み(運営規定・利用約款) ・自施設のケアマネジメントシステムの理解 ・経営参画意識(ベッドコントロール) ・地域アセスメント力 ・家族アセスメント力 ・認知症の理解(家族支援を含む) ・インテーク力(入所目的の明確化) ・相談、交渉、調整する力 ・問題解決力</p> <p>●R4 システム 専門職間の連携には効果的なツール 7 月、11 月上旬になのはな苑で実地研修を実施予定→興味のある方は参加してくださいとアナウンスがある</p>	

●認知症は病気である

・都市圏での認知症の有病率を調査(研究チームに参加))しているが、厚労省が発表した予測人数より都市圏の若い認知症患者が増えているようだ。今後は、認知症の理解なしには仕事にならない。

・認知症のタイプにより対応方法が異なるので、タイプをしっかりと理解することが大切

・認知症とは、

[いったん成人レベルに達した知能が、様々な後天的な原因から脳の損傷を起こし、獲得した知能が持続的に低下した状態にあり、慢性あるいは進行性の脳の疾患によって生ずる、記憶、思考、見当識、概念、理解、計算、学習、言語、判断 などの高次脳機能が障害され、日常生活や社会生活を自分の力では出来なくなる病気]
私たちが支援することは、生活を復権させ、なんとか生活できるようにすること。本人の環境を改善して行くことが認知症ケアのメインとなる

●認知症ケアで大切なこと

「失敗したな・・・次はこうしよう」などと工夫するが、認知症の人はそれが出来ない

利用者に行動変容を求めるのではなく、自分(ケアする側)が変わらないといけない

●認知症ケアのポイント

・認知症ケアの困難感の背景には、介護者の主観・介護者主導の思考が存在する

・認知症のタイプ別にその特徴を理解してケアの方策を考える

・中核症状による生活障害の補完、生活リズムの再構築が不可欠

・BPSDを抑えることをケアの目標にしない

・認知症者の生活の質の担保には、向精神病薬の適正化は不可欠

●なのはな苑での取り組み

・ケアプランの周知と実践のための補助ツール

① 「Do-Check カード」によるケアプランの実践

② Do-確認表

・自宅へ退所後のサポート体制

お助けコール:24 時間いつでも困ったことがあれば相談を受ける体制

緊急入所:在宅生活が大変になったら、いつでも再入所の相談を受ける体制 など

●質疑応答

Q, 転倒リスクが高い方へのセンサーマットや車いす上のベルト着用等について

A, 施設内でも普通に自宅と同じように過ごしているので、転倒することもある。家族へケアプランでしっかりと対応をしていることと、それでも転倒することはある旨を説明している

Q, 家へ帰ることよりも施設の継続利用を希望する方もいるのではないかと

A, 老健は二極化して良いと思っている。長期希望であれば別の施設を紹介している

内容

Q, ケアマネジャーと相談員の業務分担はどうしている？

A, 相談員は、外と中の繋ぎ役のために存在している。なのはな苑では、CMは背景職種の異なる(介護と看護)2名体制にしている

Q. 施設利用のリピート率は？

往復型在宅支援をメインに行っている。自宅にいる間は、デイケアとショートステイでサポート待機は作らない。すぐに入所出来ない時は、別の施設を紹介している

●最後に

姑息的手段等を用いて経営を成り立たせてはいけぬ。現状の体制で難しいのであれば、それを是正してこれでは難しい事を国へ訴えていくことが大切である

是非、王道を行って下さい

3. 事務連絡: 渡邊副部長より

(今後の活動予定について)

7月 BBQ

8月 新人研修 の案内

(相談員部会HP)

相談員部会研修の議事録をホームページにアップしている。現状、閲覧にはパスワードが必要になっているが、ロックを解除するように調整しており、今後は、パスワードなしで閲覧可能になる

以上

第1回南ブロック会 アンケート

実施日時 : 平成 25 年 6 月 19 日(水)14:00~17:00

実施場所 : 横浜市西区福祉保健活動拠点「フクシア」

講師名 : 松浦 美知代 氏 (介護老人保健施設 なのはな苑 看護部長)

講演 : 1.なのはな苑での事例紹介
2.看護部長として支援相談員に期待する事

<参加人数> 34人

<アンケート結果> 回答総数 28人

① 今回の研修内容について

(1) 研修のテーマは興味を感じるものでしたか？

a. 興味がある b. どちらともいえない c. 興味を感じない
28人 0人 0人

(2) 内容に対して研修時間は適切でしたか？

a. 長い b. 適切 c. 短い
2人 25人 1人

(3) 研修内容のレベルは適切でしたか？

a. 高い b. 適切 c. 低い 無回答1人
3人 24人 0人

(4) 研修内容は今後の業務に生かされると思いますか？

a. 思う b. どちらともいえない c. 思わない
26人 2人 0人

(5) 今回の研修で、良かった点と悪かった点をあげてください

- ・ 良かった点 :
 - ・ 勉強になった
 - ・ 在宅復帰に向けて具体的な取り組み方法の話があったこと
 - ・ 先生の心が伝わった
 - ・ 参加者間で少しだがざっばらんに話しが出来た
 - ・ 認知症ケアについて再確認が出来た
 - ・ 具体的で解りやすかった
 - ・ 物事の捉え方が勉強になった
 - ・ 認知症の根本的な考え方を学べた
 - ・ 相談員の心得を聞いた
 - ・ 相談員としての役割などをわかりやすく説明してもらえた
 - ・ インタークの時点で役立てたいと思った
 - ・ モチベーションが維持出来た

- ・ 改めて日々の業務を見直そうと思えた
 - ・ 当施設も在宅復帰に向けて取り組んでいきたいと考えていたので、とても参考になった
 - ・ 一番興味のある施設の方から話をしてもらい、認知症に対する意識を上げていこうと思った
 - ・ 現実に即した内容で、即日業務に活かしていけると思った
 - ・ 支援のあり方について学ぶことが出来た
 - ・ 他の老健での現状を伺え。自分の施設で何が出来るかを考えることが出来た
 - ・ 在宅復帰の内容が一番興味のあるところで、今回はとても良かった
 - ・ 自分の施設と比べて、ものすごく高いレベルのことをされていると感じ、恥ずかしい
 - ・ 業務に役立つ研修だった
- ・ 悪かった点 :
 - ・ なのはな苑の相談員さんも来られていたので、相談員さんの立場の話も少し聞きたかった
 - ・ 実地指導の話もされたが、もう少し聞きたかった
 - ・ なのはな苑は在宅復帰率 50%を超えているが、具体的にもう少し詳しく聞きたかった
 - ・ 休憩のタイミングをもう少し早くして欲しかった

(6) 講師の先生に一言お願いします

- ・ すばらしい講義でした。本当にありがとうございました
- ・ 部長のお話はいつも引き込まれます。部長の下で指導を受けている相談員さんは幸せ
- ・ 積極的に関わり、認知症ケアの質を改善していきたいです
- ・ 当施設にも来て欲しい
- ・ なのはな苑の見学に行きたい
- ・ 5月に相談員になったばかりで、この先やっていけるか不安だったが、「喝」が入った！
- ・ 各老健に一人は、今日の部長のような人がいてくれると良いなと思った
- ・ 当施設の看護や介護の職員にも聞かせたい内容だったと思った

② 研修の総合的な評価について

(1) 研修に参加して良かったと思いますか？

- | | | |
|-------|--------------|---------|
| a. 思う | b. どちらともいえない | c. 思わない |
| 28人 | 0人 | 0人 |

(2) 今後もこのような研修に参加してみたいと思いますか？

- | | | |
|-------|--------------|---------|
| a. 思う | b. どちらともいえない | c. 思わない |
| 28人 | 0人 | 0人 |

③ 今後の研修に関して

(1) 今後、どのような研修に参加してみたいですか？

- ・ 参加してみたい内容 :
 - ・ 加算をどのようにとっているか？上手な方法など
 - ・ 認知症に関しての研修
 - ・ ターミナルケアを老健で実施する場合の相談員の業務
 - ・ 相談員になってまだ半年なので色々な事を学びたい
 - ・ 後見人制度

- ・ 招いて欲しい講師：
 - ・ 和田 行雄 氏
(全国認知症高齢者グループホーム理事・東京都グループホーム連絡会事務局長)
(ブログ:介護・福祉の応援サイト けあサポ <http://www.caresapo.jp/fukushi/blog/wada/>)

(2) 執行部に対する希望・要望をあげてください

- ・ 今後も研修の機会を増やして欲しい
- ・ 喫煙所が今回は無かったので考えて欲しい